

佳作

運動会

東郷小学校 六年 寺原 詩楓

徒走がはじまった

五組の二レーンでぼくは走る

くつのひもをきつくしめて、じゅんびした

スタートだ

ピストルの合図でとび出した

でも、少し出るのがおくれて三位だった

その時、白団のおうえんの声が聞こえた

力が出て、スピードを上げた

前の二人が近づき、二人をおいこした

ぼくは一位になった

両手を広げてテープを切った

やったー

佳作

ぼくのふるさと日向

大王谷小学校 四年 藤島 愛音

ひよつとこがはずんでる。

おかめもわらってる。

きつねのおどり方がおもしろい。

へべすは日向の人気者。

甘くてすっぱくておいしい。

みんなもへべすかけてみて。

しぜんがたくさん。

海がある。

山もある。

キラキラかがやいている。

日向に生まれてよかったなあ。

佳作

おはようの朝

大王谷小学校 四年 原野 久瑠美

「おはようございます。」

近所の人にあいさつができなかった。

あいさつをしてくれた人が通りすぎた後、

こうかいした

いやな思いをさせたかな

次からは、気をつけようと思ったけれど

人が通らなくてあいさつができなかった。

次の日「おはようございます。」と言われた。

わたしも「おはようございます。」と言えた。

相手の顔はすぐくニッコリ

わたしもうれしくなった。

きのうは、どんよりしていたけれど

今は、心も体も、うきうきだ。

あいさつって大切だな。

佳作

そろばん

大王谷小学校 四年 中塩屋 璃乃

一年生の三学期
そろばんを習い始めた
初めて聞いたそろばんの音
ビー玉がはじけるような音
どんだんその音がまよってきて
大雨が地面に落ちる音に
この前六級を合格
今は五級 うれしい
五級は数が多くなる
どんだん練習していつて
一級を取りたい
「がんばるぞ。」

佳作

友達存在

財光寺小学校 五年 木口 心花

友達とはどんな存在なのだろう。
教室の後ろからはしからはしまで
ながめてみた
助け合っている人
友達と笑いながら話している人
楽しそうな人がたくさんいた
しかし逆に
静かに本を読む人
なにもしていない人
自分一人が良い人もいた
私は友達存在は
ないと「だめ」だと
改めて感じた

佳作

消しゴム

財光寺小学校 五年 三浦 瑛至

四角い四角い消しゴムよ
働きすぎて少しずつ少しずつ
小さくなるよ
四角い四角い消しゴムよ
働きすぎて少しずつ少しずつ
丸くなる
四角い四角い消しゴムよ
小さくなっても丸くなっても
ぼくは君をいつも大事にするよ
だって君は長いあいだ
ぼくのそばにいてくれたから
ぼくは君をずっと大切にするよ

佳作

私の自転車

財光寺小学校 五年 原田 愛美

自転車に乗って
私は力のげんかいまで
ペダルをこいだ。
自分の力で前に進む
風が気持ちいい
なにも言わずにペダルをこいだ。
どこまで行けるのだろう
目的もなく走る私
自転車なら私はどこまでだって
行けるのだ。
明日・・・そしてあさってと
つづくのだ。

佳作

最後の運動会

美々津小学校 六年 遠田 優穂

今年はいよいよ最後の運動会
校旗を持って入場行進
ピストルと同時に 飛び出し成功
全力疾走 二位でゴール
今年はまだまだ最後の運動会
和太鼓ドンドン 息びったり
全員リレー 私はアンカー
一位めざして 必死に走る
笑顔で元気に 力をつくし
思い出いっぱい 汗いっぱい
今年はやっぱり本当にやってきました
最後の運動会
…でも 楽しかった

佳作

秋

財光寺南小学校 五年 島原 麻樹

上からヒラヒラ何かがおちてくる、
上をむくといちようの葉、
あつというまにもう秋だ。
夏よりはやく暗くなる。
夕がたになるとながある。
ヒジ雲がでてきたな、
カラスのなき声も聞こえたよ
運動会がもうすぐだ
秋は冬になるじゅんびをしてる。
寒くなったり
いろんな気持ちで、
秋をすぎよう。

佳作

運動会

細島小学校 五年 若本 沙希

スタートのピストルが鳴る
地面を思い切り
けって走る

ゴールのピストルが鳴る
退場門へ

笑顔で走る

次の競技の歌が流れる

仲間達へと

応えんの声を

走らせてゆく

テントの中でみな思う

優勝までは もう少しだと
